

「ディスカバー^{むら}農山漁村の宝」（第6回選定）

第4回有識者懇談会概要

1. 日 時：令和元年12月3日（火）16：10～16：35
2. 場 所：総理大臣官邸3階南会議室
3. 出席者：江藤農林水産大臣、北村内閣府特命担当大臣（地方創生担当）、西村内閣官房副長官、岡田内閣官房副長官、西川内閣官房参与、江島内閣官房内閣審議官、牧元農林水産省農村振興局長
林座長、あん委員、今村委員、織作委員、藤井委員、向笠委員

4. 概 要：

（林座長）

- ・本日は、前回の懇談会で決定した第6回選定31地区及び5名の中から、委員の審査に基づきグランプリ及び部門賞について決定するので、宜しくお願いしたい。

【事務局説明及び意見交換】

（牧元農村振興局長から、資料に基づき、第6回選定のグランプリ及び部門賞について説明。その後、委員等からいただいた主な意見は以下のとおり。）

- ・グランプリとなった島根県の魚の屋の取組は素晴らしい。海に囲まれた日本は水産物の食文化が発達しており、中でもわかめは代表格であるが、養殖ではなくまだ産業化されていない天然物に着目し収益に結びつけている。また、インスタントスープに天然わかめを使用するといった発想もユニーク。グランプリ受賞を機に、ますます発展していただきたい。
- ・前回も述べたが、ビジネスとコミュニティに部門を分けたことにより評価がしやすく良かった。部門毎に分かれていないと、コミュニティ部門の事例にも数値的な評価が入ってしまう。また、部門を設けたことにより、これまでは難しかったコミュニティ部門からも準グランプリが生まれた。
- ・次回以降の選定に関して、関東が数値的に多いので、長野県や静岡県は中部圏に入れた方が良いのではないかなと思う。
- ・インスタ等のSNSを活用して選定地区をPRしたことにより、「ディスカバー農山漁村の宝」というものがあるということを知らしめることが出来たのではないかなと思うので、引き続きネットワークをフル活用してPRをして行きたい。
- ・若い力無くしては今後の日本は無いと感じるので、若い力を育てるといったことも視野に入れながら進めて行くことも必要かなと思う。
- ・今年のラグビーW杯や来年の東京オリンピックなど、日本を発信する良い機会がある中で、山上木工や杉本製茶等の伝統技術で世界を視野に入れた取組が見られたことや、パラリンピックに向けて農福連携の取組が多く見られたことが良かった。また、SNS等を活用した発信力に長けたところが良い形になってきていると思うので、「伝統技術での世界進出」「福祉との連携」「SNSでの発信」を今後も進めて行きたい。
- ・今回の選定は農林漁業のバランスがとれていて良いと思う。
- ・FAOでも零細農家や貧困などが問題になっており、世界でも共通の問題である。こうした

問題に向けて、日本の「ディスカバー農山漁村の宝」の選定事例を世界に向けて発信することで救える部分があるのではないかと期待している。

- ・ 今回も千件近い応募があったが、事務局の工夫もあり最も応募しやすい賞になったのではないかと感じる。
- ・ 選定結果については、バランスがとれていて非常に良い。
- ・ 宮崎に住んでいても、こんなものがあったのかと思うものがある。「ディスカバー農山漁村の宝」はそういったものをフィーチャーして光を当てていく素晴らしい取組。
- ・ 選定事例のような地道な取組がいつか急に花開く時が来る。今はネット情報により、日本人が知らない日本のことを外国人が知っている時代なので、今後も SNS 等で世界に向けて発信し続けていくことで、日本の文化が世界を変えるのではないかと思う。

(林座長)

- ・ 意見交換を終了する。
- ・ 第 6 回選定のグランプリ及び部門賞について、了承することによろしいか。

(異議なしの声)

(林座長)

- ・ それでは決定とさせていただきます。
- ・ 閉会に際して、北村内閣府特命担当大臣と江藤農林水産大臣から御挨拶賜りたい。

【閉会挨拶】

(北村内閣府特命担当大臣)

- ・ 今年度も地域の事情を踏まえた、特色ある取組が選定され、地方創生に直結するものも多かったと感じている。
- ・ これらの取組が選定されて終わりということではもったいなく、今後も継続され、さらに発展していくことが重要。
- ・ 地方創生を体現している、「ディスカバー農山漁村の宝」の選定事例が飛躍し、これに続くとする事例が広がって行くことを期待している。

(江藤農林水産大臣)

- ・ 委員からも御発言あったように、部門別に分かれていることは非常に良いこと。そして、スケールメリットだけを求めるのではなく、小さくてもキラリと光るものを選定していただいていることは非常に素晴らしい取組だと思う。
- ・ スケールメリットだけを求めて国として支援するのではなく、資金力は無くてもアイデアがあるところに支援して行けるよう取り組んでいるが、そういったものを発掘するのがまさにこの取組であると思う。
- ・ 今回選定されなかったところも素晴らしい取組が多いので、選定事例だけでなく、様々な取組の情報も今後活用していく。

【閉会】

(以上)